

0歳から
18歳にかけての

子育て環境を育むワークショップ 当日のご意見等

▼開催日 令和6年2月17日（土）14：00～16：00

▼参加人数 10名

▼ファシリテーター 特定非営利活動法人ワークライフ・コラボ 堀田 真奈氏

▼プログラム

1. ワークショップの目的
2. 少子化の現状と対策
3. グループワーク

- ① 「こどもと接する際・子育て中で、『大変なこと』・『楽しいこと』は？」
- ② 「子育てに対するプラスイメージを効果的に発信するには？」
- ③ 「子育て支援やこども施策に対する、市への意見や希望する取組は？」

「こどもと接する際・子育て中で、「大変なこと」・「楽しいこと」は？」

大変なこと・不安なこと

【経済的不安】

- ・育児用品や食費など、お金がかかる
- ・習い事にお金がかかる
- ・今後お金がいくら必要か読めない

【仕事と子育ての両立】

- ・残業続きで、こどもと関われない時期
- ・夫婦とも忙しい時の保育所のお迎え

【子育て支援】

- ・希望する保育所や児童クラブに入れるか不安
- ・中高生の居場所がない

【こどもとのコミュニケーション】

- ・話せるようになるまで意思疎通できない
- ・反抗期でこどもと家族の板挟み

【こどもの遊びや暮らし】

- ・受験や大学進学による一人暮らし

【体調不良時】

- ・熱が下がらない、病児保育が綱渡り
- ・病気を家族でうつしあう

【育児】

- ・ワンオペ育児になるとき
- ・夜泣き、眠たい
- ・こどもの成長が気になり、育児書ばかり見てしまう

【自分自身】

- ・自分の時間がない、行きたい場所にいけない
- ・親の介護と子育ての両立

【価値観】

- ・こどもと意見が合わない
- ・自分の親と育児について意見が合わない

楽しいこと・嬉しいこと

【こどもの成長】

- ・初めてハイハイや歩いたとき
- ・成長をそばで見られること
- ・部活の試合で頑張っているとき
- ・辛い時に「大丈夫」と抱きしめてくれたとき
- ・大人になって気持ちが共有できたとき
- ・娘が母親になったとき

【こどもとの遊び】

- ・公園にお弁当を持って出かけられること
- ・一緒に遊んだり、カフェや食事するとき
- ・旅行やキャンプなどをするとき
- ・双子同士と一緒に遊べること

【こども自身】

- ・とにかくかわいい
- ・抱いて寝た時の温かさ
- ・保育所のお迎えに行くと、ハイハイで駆け寄ってくれる
- ・こどもが「大好き」と伝えてくれたとき

【自身の成長】

- ・頑張る理由ができた
- ・こどもの頑張る姿にパワーをもらう
- ・こどもの「好き」で興味がなかったものに出会った

【交流】

- ・こどもを通じて出会う人が増えた
- ・ママ友ができた

【家族】

- ・祖父母の生きがいを作った
- ・家族旅行ができるようになった
- ・家族が多いと話題も多くて楽しい

子育てに対するフラスイメージを効果的に発信するには？

- ・現役の子育て世代が情報発信
- ・男親が楽しいことを発信してはどうか
- ・昔と今の違いを発信してはどうか
- ・インターネット、SNSを使っでの情報発信
- ・雑誌への掲載
- ・地域の方や保育所の先生に情報発信してもらってはどうか



子育て支援やこども施策に対する、市への意見や希望する取組は？

【支援策】

- ・助けてほしいと思った時に、頼れる場所
- ・子育てや多様性、父親・母親に関わらず、こどもに合わせた支援
- ・1歳くらいまでの時期は、地域の中に子育てサポーターを設けてはどうか
- ・何かあったときに手助けしてくれる仕組みを気軽に利用したい
- ・何にでも使える一時お助け券
- ・誕生日ごとのクーポン券
- ・(介護と子育ての)Wケア対策として、介護認定制度の子育て世帯への優遇措置

【情報発信】

- ・プッシュ型通知による情報発信
- ・必要な情報は全員に伝わるように
- ・情報をタイムリーに得られるように
- ・まとめて支援内容が確認できる総合窓口
- ・子育てマップ

【相談体制】

- ・学校や親以外の、こども側の相談相手
- ・学校内で気軽に相談できる空間(校内CAFE)
- ・しんどい時に頼れる場所
- ・何でも相談できるところ

【機運醸成】

- ・どの方向からも、子育てを全力で応援する姿勢
- ・どのようなこどもでも受け入れる空気
- ・男親も参加しやすい雰囲気

【学ぶ機会】

- ・親が、こどもの発達ごとに学ぶ機会
- ・こどもの発達やコミュニケーションの取り方を学ぶ機会